

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月28日(水)

### 《宝物を見つけたでしょうか》

今日の第一の朗読はエレミヤ預言者の話でしたね。(エレミヤ 15・10、16-21)

エレミヤという名前を聞いて第一に思い出すのは、苦悩の人、悲劇の主人公とでも言うのでしょうか、神様のために生涯を最後まで辛い思いを抱えながら終えた預言者です。ですからエレミヤ書を読む時、この方が苦しんだ内容を「ああ、こんな事があるのだ」と思うぐらいに、悲惨な生き方を見せて下さった預言者です。今日もあまりにも辛くて神様に文句を言いますよね。「あなたはわたしを裏切った」と。それぐらい生き方の中で、自分が耐えられないぐらい疲れ果てたのです。その時神様は『もし、あなたが軽率に言葉を吐かず熟慮して語るなら、わたしはあなたを、わたしの口とする。』とおっしゃったのでした。

実際に死ぬ時まで、家族までが気遣いだと思って彼を見捨てました。彼は真面目で内向的な性格だったのですが、神様から言われたのは、人々を刺激する事「お前は、悪い」と、厳しく人々に叫ばなければならない、その命令を頂いた人です。彼本人は、音楽を好み歌ったり、詩を書いたり、自然を愛しそれを楽しむような、繊細で感受性の敏感なタイプの間人だったのですが、全くその性格とは違う反対の事ばかりさせられて、そのために人々からは憎しみの目で見られる事になってしまった人生を送った人です。

神様が召し出しの呼び掛けをなさるのは、その一人ひとりに全て違う使命を与えるためです。ですからある人はいつも褒められて、いい事ばかりを行って人生を送った人もいるし、ある人はいい事を行っているけれども非難に囲まれて、辛い人生を過ごさなくてはならない人もいたようです。しかし、この世の中が全部だと思ったら、悔しい心も出てくるかも知れませんが、実際に私達はこの世だけを見る事ではないのです。ですから天の国は、約束された人、きつい使命を果たした何人かに与えられるものだと私は信じます。

さあ、今日の福音(マタイ 13・44-46)に入ってみましょうか。

今日のこの福音は、よくご存知の例え話ですよ。『天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払ってその畑を買う。』という話です。そして次の例えは真珠でしたね。この例え話の中に隠されている真理が一つあるのですが、それは何だと思われますか？ 常識と外れる何かがあります。私達が持っている常識とちょっと違う何かを書いてあります。

皆様、山に行って貴重な漢方の薬になる植物が目に入ったらどうしますか？ 急いで家に帰って持っている財産全部売って、そのお金で山を買いますか。そうではないでしょう。その場で自分のポケットに入れてしまうでしょう。そうではないですか。畑にいて宝が目に入ったら、それは自分のポケッ

トに入れて自分のものにしますよ。普通そうではないですか。

ここに神様の国、天の国に入るには、必ず払わなければならないものがある事をおっしゃっているのです。神様の国を求める時には、何よりも良心が基準にならなくてははいけません。神様が下さった良い心が前提にある事をおっしゃっています。神様の国、その宝を自分のものにしようとするれば、自分が今まで持っていた全てのものを、手放さなくてはならないとおっしゃっているのです。

私達は信仰の生活をしていても、「御国のために私が惜まらずにこれは手放します。」と実践したのものには何があるでしょうか。霊的に申し上げますと、「御国、神様が約束されたその世界は、自分が執着していたものを放棄する事、あきらめて捨てなければ入れない。」そういうものかも知れません。しかしイエス様がおっしゃったように、神様は忍耐強い方です。いつも待って下さいます。しかし、その待って下さるのは、私達がこの世の中に入られる間の事でしょう。ある意味で私達がこの世の中で生きている間は、大きい唯一のチャンスかも知れません。その宝物を、自分の物にする事が出来るかどうかのチャンスになるかも知れません。皆様、宝物を見つけたのでしょうか。もし、「私が信じているイエス様の御心が宝物と強く感じられない。」そういう方がいらっしゃればそういう面では集中して下さい。

本当に自分の人生の中で、何よりも“私達が求めなければならない宝が、イエス様だ”と、その気づきがあれば、皆様は何か変化を体験すると思います。

もし、「私が何10年信仰の生活をしていても、自分のものはちゃんと握って今までやってきた。神様のためには何もした事がないんじゃないか。」と、そういう思いがあったら、そこから始めてください。それが最後まで私達の宿題ではないかと思えます。

ありがとうございました。